

公共施設再編のための市民合意形成手法に関する研究（４）
 -さいたま市与野本町小学校における基本設計案の策定-

正会員 ○小知和 建吾*
 同 賈 亦楊*
 同 志村 秀明**

公共施設 複合化 さいたま市
 市民参加 基本設計 交流シーン

1.はじめに

1-1.研究の背景と目的

これまでに、複数にまたがる既存公共施設の再編・複合化における市民参加によるワークショップ手法に関する研究がなされている。そこで本稿では前稿（１）～（３）を踏まえ、さいたま市与野本町小学校（以下：与野本町小）を中心とする公共施設複合化検討ワークショップ（以下：WS）と報告会を事例として、基本設計等の策定手法について論じる。

1-2.研究の方法

まず 2015 年度までの WS の概要と基本計画案について説明する。次に、2016 年度にさいたま市が検討していた基本設計案と、基本設計を決定するための報告会のプログラム、報告会での市民からの意見、結果としてまとめられた最終的な基本設計案について提示する。最後に、市民参加による基本設計案の策定手法について論じる。

2.与野本町小複合化検討ワークショップと基本計画案

さいたま市では、公共施設マネジメントの取り組みの中で、与野本町小複合化検討 WS が行われている。（図 1）

2016 年度までに基本設計、2017 年度には実施設計を完了し、2018 年度には改築工事に着手する予定である。

2-1.2015 年度までの検討 WS

2013 年度から 2014 年度にかけてモデルケース WS が行われた。先進事例の見学と複合化対象候補施設の見学



図 1 与野本町小の概要

や、デザインゲームによる北校舎と東校舎の機能配置案の検討が行われ、その結果を踏まえて最終的に 3 案にまとめられた。

2015 年度には、2014 年度に提示された基本計画案 3 案より所管課の検討・調整を経て作成された 2 案を対象に、基本計画案策定に向けた WS が行われた。平面計画図及び模型と CCD カメラ、また、交流シーンカードを用いて各施設の利用者と管理者を具体的にイメージしながら検討

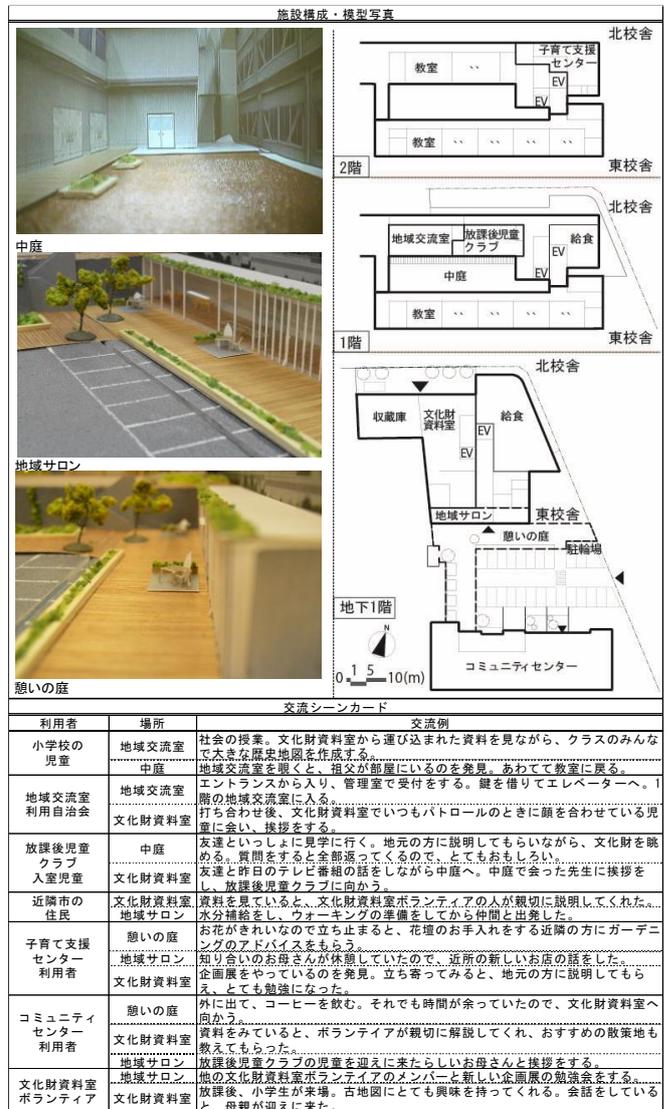


図 2 基本計画案

を行い、基本計画案を決定した。

2-2.基本計画案

2015年度に作成された基本計画案を図2に示す。

北校舎を建て替え、東校舎を改修して、与野本町小、子育て支援センターよの、与野本町放課後児童クラブ、与野文化財資料室が複合化され、北校舎の1階には小学校に関わる地域住民の交流を図る「地域交流室」、地下1階には誰でも利用可能な「地域サロン」「憩いの庭」が設けられた。さらに、利用者ごとに各施設の具体的な交流例を示す計16の交流シーンカードがまとめられた。

3.2016年度複合化基本設計案に関する報告会

2015年度の基本計画最終案より、所管課の検討・調整を経て作成された基本設計案に関する報告会が行われた。基本設計案では、憩いの庭の花壇の位置に、受水槽と室外機、目隠しルーバーの設置が検討された。

3-1.報告会のプログラム

報告会のプログラムを図3に示す。

参加者は、市民に加えて全ての所管課の職員が参加した。地区市民では、都市マスタープランと連携するために、4名がマスタープラン策定委員を兼ねることとなった。

報告会では、前半でこれまでの基本計画案策定の経緯とWSプログラム及び、施設構成の説明を基本設計案の平面図と基本設計案模型を用いて行った。

後半では、まず基本設計案に関する質疑応答を行い、次にCCDカメラ映像と交流シーンカードを用いて、各施設の利活用と運営方法について意見交換を行った。

最後に、参加者に対してアンケート調査を行った。

3-2.報告会での市民からの意見

① 2015年度までのWS参加者からの意見

16枚の交流シーンカードを用いた基本設計案の確認では、交流シーンカードにある「(子育て支援センター利用者) 憩いの庭：お花がきれいなので立ち止まると、花壇のお手入れをする近隣の方にガーデニングのアドバイスをもらう。」「(コミュニティセンター利用者) 憩いの庭：外に出てコーヒーを飲む。それでも時間が余ったので、文化財資料室へ向かう。」という交流イメージが実現され

日付 平成29年2月21日		参加者	
WS参加者	地区市民	9	小学校
	公募市民	3	学校施設課
	公共施設	0	健康教育課
	マネジメント	0	博物館
	会議市民委員	1	青少年育成課
	都市づくりNPO	0	子育て支援政策課
	さいたま	0	コミュニティ推進課
		0	児童課
	小合計	13	行政改革推進部
	当日一般参加	10	市民合計
		23	全体合計
			37

テーマ (所要時間)	WSの流れ	ツール	内容
はじめに (6分)	WS開始		小学校と周辺公共施設の複合化検討のこれまでの経緯、WSプログラムを説明する。
基本設計案説明 (20分)	基本設計案確認	・基本設計案平面図 ・基本設計案模型	施設の平面計画に関して、これまでの基本計画案と基本設計案の変更点についてを説明する。
基本設計案に関する意見交換 (45分)	基本設計案に関する質疑応答	・基本設計模型 ・CCDカメラ	施設の所管課職員を含めて、基本設計案に関する各施設配置・動線計画・運営・安全対策・搬入動線について、質疑応答と意見交換をする。
	利活用・運営に関する意見交換	・交流シーンカード ・基本設計模型 ・CCDカメラ	
まとめ (19分)	WSまとめ	・アンケート調査	

図3 2016年度報告会のプログラム

なくなることから、憩いの庭に受水槽を設置することを見直して欲しいという意見がでた。

また、文化財資料室の運営に市民ボランティアが参画できるように、「東京の深川地区のような市民ボランティア制度を設けて欲しい。」や、「基本計画案のように、北校舎屋上を活用できるようにして欲しい。」という意見がでた。他にも基本計画案になったものとして、「校門脇にある古井戸を活用して欲しい。」という意見もでた。

② 一般参加者からの意見

利用者の動線や子育て支援センターの面積、各施設配置に関する質問があった。

③ アンケート調査

WS実施のお知らせや計画図面などの情報開示の方法、初めて参加する市民や子ども連れの参加者に配慮したWS内容や会場整備などの改善を求める声が多く上がった。

3-3.最終的な基本設計案

現在の基本設計最終案を図4に示す。

さいたま市は再設計を行い、憩いの庭には受水槽を設置しないことになった。また、北校舎屋上の活用と校門脇古井戸の活用を検討することになった。更に、文化財資料室での市民ボランティア制度についても検討する方向で調整されている。

4.まとめ

模型のCCDカメラ映像に加えて、交流シーンカードを用いることによって、WSによって策定した基本計画を踏まえた基本設計案となった。市民参加のWSによって公共施設の再編・複合化を検討する場合には、施設構成の図面だけではなく、交流シーンを基本計画に含めることが重要性である。また、所管課職員が、市民の意見を直接聞くことが重要であると言える。

参考文献

- 川島優太 他3名：公共施設再編のための市民合意形成に関する研究(1),日本建築学会大会学術講演梗概集,都市計画, p187-188,2015.9
- 桂達也 他3名：公共施設再編のための市民合意形成に関する研究(2),日本建築学会大会学術講演梗概集,都市計画, p189-190,2015.9
- 賈亦揚 他3名：公共施設再編のための市民合意形成に関する研究(3),日本建築学会大会学術講演梗概集,都市計画, p747-748,2016.9
- 佐藤滋,志村秀明:まちづくりデザインゲーム,学芸出版社,2005.3

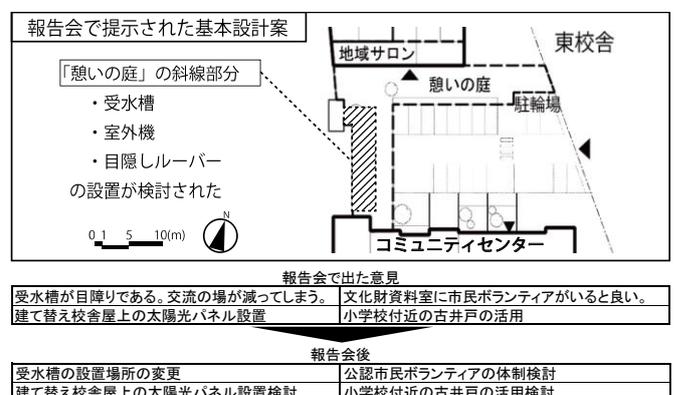


図4 報告会による基本設計案の変化

*芝浦工業大学大学院理工学研究科建設工学専攻 修士課程

**芝浦工業大学工学部建築学科 教授・博士(工学)

*Graduate school, Shibaura Institute of Technology

**Prof. Depart. of Architecture, Shibaura Institute of Technology, Dr. Eng.